

当院の眼科の特徴

眼という極めて小さく精密な器官を扱う診療科であるため、常に慎重・丁寧に、患者様の立場で診療を行うように心がけております。

全身疾患の一部として目の病気が生じることもあります。これらの病気に関しては内科、脳神経外科や皮膚科などとも連携して治療にあたっています。

また当科では世田谷区を中心とした地域医療ネットワークを重視し、病診連携（ホームドクターとの連携）を積極的に推進するとともに、大学病院などの高次医療機関との連携も適切に行い、受診される皆様が最良の医療を受けられるように常に心がけております。

取り扱う主な疾患

白内障、緑内障、糖尿病網膜症、ぶどう膜炎（サルコイドーシス、原田病、ベーチェット病、急性前部ぶどう膜炎など）、網膜血管閉塞症、網膜剥離、黄斑変性症、視神経炎・視神経症、角結膜疾患、ドライアイ、流涙症、涙嚢炎（涙のう炎）、鼻涙管閉塞症、涙小管炎、加齢性眼瞼下垂、眼瞼内反、眼瞼けいれん、斜視、弱視など。



眼科受診後に半日程度、散瞳眼底検査の際に使用する薬の影響で、自動車・自転車などの乗り物の運転ができなくなる場合があります。症状によっては予定外に散瞳眼底検査を行うこともありますので、眼科受診時は乗り物の運転をせずに来院してください。

**得意分野****■緑内障**

中途失明の原因の第1位である緑内障は、高齢化が進むことで、さらに患者様の増加が懸念されています。当科では緑内障の早期発見・早期治療を重点項目の一つとして取り組んでおります。レーザーを用いた虹彩光凝固術、隅角光凝固術や観血的な虹彩切除術、濾過手術等を行っており、高い実績があります。

日本緑内障学会評議員である三嶋弘一部長を始め、緑内障を専門とする常勤医師3名と、必要に応じて東京大学眼科名誉教授である新家眞院長も随時診療・助言を行い、一丸となって万全の態勢で診療にあたります。

■白内障

手術は「安全第一」を考え、むやみに手術時間を短縮するのではなく、時間がかかっても丁寧にやることをモットーとし、総合病院の特性から、入院にて対応します。

■加齢黄斑変性、黄斑浮腫、糖尿病黄斑症に対する抗 VEGF 療法

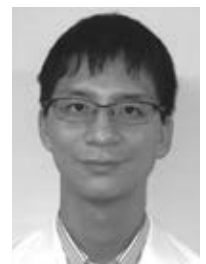
■加齢黄斑変性や、網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫、糖尿病黄斑症に対する抗 VEGF 療法（硝子体内注射）にも力を入れております。MIGS (Minimally invasive glaucoma surgery) エクスプレスをを用いた濾過手術や電気切開による流出路再建術などの低侵襲の緑内障手術も積極的に行っています。

担当医師紹介

部長
三嶋 弘一
(みしま こういち)



医長
齋藤 瞳
(さいとう ひとみ)



医員
東 邦洋
(あずま くにひろ)